

ずっと、選ばれるまち、
住み続けるまちに。

その先に向かって、新しい種をまく

落合かつひろ 4期目の約束

その先に向かって、新しい種をまく

平塚市の人口は8年連続で転入超過となり、昨年は過去30年間で最多の1,676人を記録しました。また、企業の本社移転や研究棟新築なども進んでいます。市民意識調査では住み続けたいという前向きな回答が約9割となりました。

駅周辺はマンション建設ラッシュで約2,000戸を分譲。ツインシティ大神地区には、新しい相模小学校、企業などに続いて、4月下旬に大型商業施設がオープンします。

これまで種をまいてきた数多くの施策が芽を出し、花を咲かせ、実を結び始めています。次の4年間は、その果実を市民の暮らしに還元するとともに、持続可能なまちづくりをしっかりと根付かせるため、新しい種をまき続けます。

落合かつひろ

1 新たに取り組む主な施策

- ①【子育て】子育て支援は地域のトップランナーを維持～その先へ
- ②【福祉・暮らし】「本当に住みやすい街大賞・シニア編」で2年連続3位～その先へ
- ③【安全・安心】災害協定数は約3倍増、駐輪場整備で犯罪件数は半減～その先へ
- ④【産業・環境】スマート農業で担い手支援、企業の脱炭素化を加速～その先へ
- ⑤【まちづくり】ツインシティ大神地区がまちびらき～その先へ

2 施策の実現に向けて

Ⅰ 新たに取り組む主な施策

①【子育て】子育て支援は地域のトップランナーを維持～その先へ

子育て支援

- ・ 小児医療費の助成を高校生(18歳)まで拡大します(所得制限なし、湘南の市初)。
- ・ 産後パパ育休を広めます。男性の家事・育児講座を拡充します。さまざまな施策を組み合わせ、もう1人子どもがほしい家族を支援します(湘南初)。
- ・ 市民病院は、地域唯一の小児二次救急病院として、小児・周産期医療を守ります。
- ・ 待機児童ゼロを継続します。二丁の駅周辺に保育所を新設します。4月入園以外も子どもを預けやすい体制をめざします。
- ・ 保育の質を向上し、地域 No.1 の手厚い保育環境をめざします。まずは配慮が必要な子どもへの対応手当加算などを進め、加えて一定の定員での保育士の追加配置など、保育現場のマンパワーをさらに充実させます。
- ・ 手ぶら保育を進めます。オムツのサブスク(定額制)などを支援します(湘南初)。
- ・ 病児・病後児保育室を岡崎地区に新たに開設します。
- ・ 公立保育所は医療的ケア児をはじめ配慮が必要な子を支援する地域拠点として、リーダーシップを発揮します。
- ・ 放課後の子どもの居場所を確保します。放課後児童クラブの小学校余裕教室への移転や受け入れ人数の多いクラブの分割を進めます。

教育

- ・ 令和6年9月、中学校完全給食を開始します。新しい給食センターから温かい給食を届けます。新給食センターを活用し、給食サービスを広げます。
- ・ 小・中学校のトイレの洋式化をさらに加速します。1期目から公約にしてきました。避難所となる体育館を含め、令和8年度の洋式化率80%を目指します。
- ・ 教室や体育館の照明をLED化します。
- ・ GIGAスクール構想を着実に進めます。タブレット端末などを活用した子どもたちの情報活用能力を育成します。
- ・ 学校現場のマンパワーをさらに充実させます。一人一人を大切にする平塚の教育を充実します。
- ・ 中学校部活動の地域移行を進めます。
- ・ 放課後自主学習教室を充実させます。子どもの確かな学力の育成に取り組みます。
- ・ 小中一貫校などについて、研究します。

②【福祉・暮らし】

「本当に住みやすい街大賞・シニア編」※で2年連続3位～その先へ

福祉・暮らし

- ・ 高齢・障がい・生活困窮・ひきこもりなどが重複する複雑な相談にも対応・支援する仕組みを整えます。
- ・ 人生100年時代。口腔フレイル予防など、高齢者の支援メニューを拡充し、健康寿命を延ばします。
- ・ 高齢者の外出支援や居場所・多世代交流の場づくりのモデル事業を高村地区で始めます。
- ・ 市内に13か所ある地域包括支援センターを後方支援するため、基幹型センターを設置します。
- ・ 福祉会館のあり方を見直し、多世代共生の拠点をめざします。
- ・ ヤングケアラーやダブルケア、老々介護などを早期発見・支援できるよう、地域福祉を充実させます。
- ・ 医師会・歯科医師会・薬剤師会などと協力して、医療と介護の連携を強化し、在宅生活の質の向上を図ります。
- ・ 民間アパートを借り上げ、多様で利便性の高い福祉住宅として提供する構想づくりを進めます。
- ・ オンライン診療を普及させます。まずは、休日・夜間急患診療所から始めます。
- ・ ごみ出しの負担の少ない可燃ごみの戸別収集を、収集時間帯やカラス対策にも配慮しながら広げます。
- ・ ごみ収集車の位置や収集状況をデジタルで把握し、収集時間の見える化などを進めます。

※「本当に住みやすい街大賞・シニア編」は、民間企業による調査で、1都3県（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）を対象に、「生活環境」や「レジャー環境」、「福祉 医療環境」などの基準により選定。平塚市は令和2年、令和3年に3位。

スポーツ・文化・生涯学習

- 生涯スポーツ・パラスポーツ・eスポーツを普及し、誰もがスポーツを楽しめる環境を整えます。
- 地域の歴史再発見活動を支援して、ふるさとへの愛着と誇りを育みます。
- 東京オリンピック・パラリンピックのレガシーとして、リトアニア共和国カウナス市と姉妹都市提携をめざします。
- ひらしん平塚文化芸術ホールを会場に、バリアフリーの文化・芸術イベントを増やします。
- 電子図書館を充実させます。

人権・市民総活躍・雇用

- 児童・高齢者虐待に対応するネットワークの強化、人材育成等を進めます。
- 令和4年4月、平塚市パートナーシップ宣誓制度を開始。他の市町村とパートナーシップ宣誓制度の連携を進めます。
- 女性の再就職を支援し、子どもを産み育てながら働きやすいまちをめざします。
- 高齢者の就労を支援し、生涯現役を実現します。
- 障がいのある方などが活躍できる職場づくりを支援します。

③【安全・安心】

災害協定数は約3倍増、駐輪場整備で犯罪件数は半減～その先へ

安全・安心

- ・ 市民病院は新型コロナなど感染症対策の拠点としての役割を引き続き果たすとともに、「断らない救急」を継続。手術ロボットや高機能のMRI・CTを活用するとともに、高度急性期医療の拠点として、市民の命と健康を守ります。
- ・ 相模川・金目川水系で流域治水を進め、ハード・ソフトの洪水対策を強化します。
- ・ 県内で初めて、セーフティプロモーションスクールの認証を土屋小学校で取得しました。市内の小・中学校に水平展開し、学校の安全をさらに高めます。
- ・ 通学路や保育園の散歩コースの安全対策などを広げます。
- ・ 刑法犯認知件数は駐輪場の整備などにより、この10年で3分の1に減りました。引き続き、自治会などの防犯カメラ設置に助成するなど、地域の防犯活動を支援します。
- ・ 令和5年9月、関東大震災から100年。首都直下地震や異常気象に備え、デジタルを活用して避難所でのきめ細かな支援を進めるなど、地域防災力を強化します。
- ・ 東日本大震災の揺れを再現できる起震車を導入し、より実践的な防災訓練を実施します。
- ・ 避難所へのマンホールトイレ（障がい者対応を含む）の設置を加速します。
- ・ 産業だけでなく、福祉・医療の事業所などへ太陽光発電や蓄電池の設置、EV車の導入を補助し、停電時の電力確保・帰宅困難者対策に活用します。
- ・ 乳児用液体ミルクや間仕切りテントなど、質と量の両面から備蓄品を充実します。
- ・ 消防車や救急車の計画的な更新を行い、消防力の維持・強化を図ります。
- ・ 装備品の充実などを進め、消防団活動をより支援していきます。

④【産業・環境】

スマート農業で担い手支援、企業の脱炭素化を加速～その先へ

産業振興

- デジタル技術を活用し、農業に加え、教育・保育・介護など、産業のスマート化（省力化・高度化）を深めます。
- 新たなライスセンターの設置を支援し、米づくり県内 No.1 を維持します。
- 産業間連携や6次産業化を視野に、地産地消や販路拡大を促進します。
- 脱炭素や SDGs に取り組む市内中小企業を支援します。
- 企業の本社機能移転や事業所の新・増設を支援し、産業振興と雇用拡大を促進します。
- ひらつか☆スターライトマネーでキャッシュレス決済を推進し、市内でお金が回る仕組みづくりを加速します。

環境

- 2050年ゼロカーボンシティー平塚をめざし、意欲的な脱炭素施策を進めます。
- 先進的な波力発電に引き続き取り組みます。また、バイオマス発電の活用について研究します。
- 環境共生都市ツインシティ大神地区の住宅街区で、ZEH（エネルギー消費を実質ゼロにする住宅）モデル地区の創出に取り組みます。
- 産業だけでなく、福祉・医療の事業所などへ太陽光発電や蓄電池の設置、EV車の導入を補助し、停電時の電力確保・帰宅困難者対策に活用します。（再掲）
- 公共施設に太陽光パネル、蓄電池、EV充電器を設置します。
- 公共施設に再生可能エネルギーによる電力供給を広げます。
- EVバスの普及を促進します。
- 公用車は、ごみ収集車を含めてEV車に順次切り替えます。
- みどり基金をGX（脱炭素への社会転換）基金にして、用途を拡大します。
- 生物多様性保全アクションプランを着実に進めます。

⑤【まちづくり】

ツインシティ大神地区がまちびらき～その先へ

まちづくり・交通

- 令和6年度に平塚駅周辺地区将来構想を策定し、市民とまちのランドデザインを広く共有します。また、構想策定中においても民間の動きが止まらないよう、実施可能な支援策は前倒しして進めます。
- 中心市街地の再開発に合わせて、紅谷町駐車場のあり方を見直すとともに、駅周辺に図書館ブランチ（分館）や市民病院健診センターなど公共拠点の整備を検討します。
- 神大跡地の望ましい利活用が鍵となる土屋地区や、農をテーマとした吉沢地区の活性化、ツインシティから広がる道路網に直結する城島地区の将来構想づくりに取り組みます。
- 平塚駅～環境共生都市ツインシティ大神地区～本厚木駅を結ぶ新たな路線に、EVバスを導入します。また、ツインシティ大神地区の成長に合わせた連節バスの導入についてバス事業者と協議します。
- EVバスの普及を促進します。（再掲）
- 平塚駅南口のロータリー再整備構想の策定とあわせて、海岸エリアで自動運転バスの導入に向けた実証実験を支援します。
- 大神と寒川町をつなぐツインシティ橋や、道路2軸「平塚愛甲石田軸」・「伊勢原大神軸」の早期実現を県に強く働きかけます。
- 住民主体の地域内移送を支援し、交通空白地域や交通不便地域における高齢者の外出を支援します。

みどり・公園・観光

- ベルマーレ提案のベルマーレが主体となった民間主導の専用スタジアム構想を応援します。
- 子どもから高齢者、障がいのある人ない人、海の近くに住んでいない平塚市民も、誰もが海に親しめる、海辺の総合公園を龍城ヶ丘に整備します。養浜や新港・ビーチパークにつながる散歩道整備も進め、安全・安心で市民が誇れる海岸にします。
- 総合公園のインクルーシブ遊具を備えた「みんなの広場」を障がいの有無に関わらず誰もが自由に一緒に遊べる場として活用します。キッチンカーでの販売も広がります。
- インクルーシブ遊具の設置を、みんなのトイレや障がい者用駐車場が整備済みの公園にも広がります。
- 田園エリアにも、子どもたちの身近に、公園など遊びの場を確保します。
- びわ青少年の家の利用対象を広げ、家族やグループでキャンプや野外調理、バーベキューなどができるようにします。

2 施策の実現に向けて

- 市民のみなさんとの対話集会、「ほっとミーティング」を12年で78回（延べ929人）実施してきました。参加者を無作為抽出や青少年団体などからも募り、さらに幅広く市民意見に耳を傾けます。
- 平成23年4月の就任以降、財政調整基金（市の貯金）は約24億円増加、市債残高（市の借金）は約80億円削減しました。県内トップクラスの健全な財政運営を堅持します。
- 公共施設の適切な保全による長寿命化を図ります。
- 公立の幼稚園と保育所の再編を、さらに進めます。
- 教育会館を改修し、勤労会館・青少年会館の機能を統合するほか、他の施設の複合化・機能統合などを進めます。
- ごみ収集の民間委託を順次、進めます。
- 水産物地方卸売市場の民営化を進めます。
- マイナンバーカード普及率は全国や県内の平均を上回っています。さらにマイナンバーカードの利用可能な市役所での手続きを増やします。
- 窓口手続きのノーライト化（申請書の自動入力）を推進します。また、情報弱者をサポートします。
- 使用料や手数料の支払いのキャッシュレス化を加速させます。
- 死亡に伴う手続きの負担を軽減する「ご遺族サポートコーナー」の機能を充実します。
- 24時間対応できるAI電話サービスなどを導入します。一人暮らしの高齢者の健康観察・見守りなどにも活用します。

勇気、誠実、責任感

対話と共感で、信頼のまちづくり



ホームページもご覧ください。

<http://katsu-ochiai.jp/>

左の二次元コードまたは、

「落合かつひろ」で検索してください。

e-mail office-kizuna@katsu-ochiai.jp

電話・FAX 0463-55-3066

落合かつひろと平塚をつくる会



※無断複写・複製・転載禁止
